

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿

①

個性的なお店

武井 清子

私たちは学校の合宿で、長野県の諏訪を訪れました。その中で一番印象に残ったのは、御田町商店街を訪れたときのことです。

御田町商店街のお店の話を聞いて私はとても驚きました。なぜなら、空店舗Oを達成したと有名な御田町商店街でも、様々な問題があると聞いたからです。道路などの開発が、もともとのお客

を減らすことがあるそうです。

しかし、御田町商店街の魅力は個性的なお店が多いことだと聞きました。確かに、どのお店も個性的で見ていて楽しかったです。大型チェーン店などはないという点、おもしろい商品がたくさんありました。また、人と人とのつながりがとても感じました。あるお店へ行く、友だちのお店を紹介して、また別の店へ行く、というように、御田町商店街の力はやはりこのように、またいつか行きたいです。

優しい御田町の人

樋口 真帆

私たちは二泊三日で諏訪に行きました。二泊目は、以前からお話を伺っていた御田町商店街に行きました。行く前に「御田町の方々はよき者を受け入れてくださる優しい方々だ」と伺っていましたが、私はそれを疑っていました。

しかしそれは本当のことでした。商店街を歩いていると、青果店の方が「〇〇のシール持っている？」と

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちが5月に、学年合宿で諏訪地方を訪ねました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

貴重な自然を壊さぬため

重信 心真

私たちは、合宿で八島温泉へハイキングに行きました。遊歩道を歩いていると、右側には温泉、左側には林と川が広がっていました。そこで見たナラは根元に近いところから幹が分かれていて、数本が一本所に集まって成長しているように見えた。ネイチャーガイドの方が、この状態は本来のナラには見られないものだと言った。これは人間

が木を切り倒すことが原因で起るそうだ。つまり、このナラの林はかつて人間が手付かずのまま残っていたのかもしれない。この話を聞いて驚いた。人が自然を壊した跡はいつまでも消えることなく、影響を残しているのだということに改めて気が付かされた。

人間が遊歩道を作り自然を楽しむようになった現在、自然を完全な状態で守ることはできない。しかし、長い年月を経て生まれた貴重な自然を壊さないために自分ができるところをしたいと思います。

温かい御田町商店街

合田多喜子

私は長野県のきれいな空気と地元の方々の優しさが最も印象に残っています。八島温泉を散策した際にはガイドさんに話を聞いていたたり虫たちの声をきいたり大自然を身近に感じることができました。また、朝六時に起きて諏訪湖畔を散策した際にも大きな湖に太陽が映ってすてきでした。

御田町商店街では地元の方々にたくさん話を伺うことができました。その中でシャッター商店街を抜け出した今もなお課題が残っているということがわかりました。しかし、そんな御田町商店街には、今も昔も変わっていないことが一つあります。それは常に助け合い、お互いのことを思いやりながら生活しているということです。商店街の中のスーパーでお話を伺った際、おばあちゃんたちのためにやわらかく、食べやすい煮物を売っているという話を聞きました。そんな一人一人の優しさが今の温かい御田町商店街をつくったのだと思います。

新たな課題を解決しよう

阿部 由芽

私は先日、高校のフィールドワークで初めて諏訪を訪れました。フィールドワークのメインは「御田町商店街」でした。行く前に、以前はシャッター商店街だったが、努力により現在は空店舗Oになつたという話を聞きました。そのため実際に商店街に行き、このことについてお店の方々にインタビューしました。

商店街は今まで自分が抱いていた昔ながらの商店街とは異なり個性的で新しいお店がたくさんありました。一方で、インタビューをした中で、悪いほうへと変わってしまったという内容の話が一番心に残りました。その話は人が来るようになって新しく道路が作られたが、その道路によって諏訪に立ち寄る人が減ったということでした。便利になることは、もちろん良いことですが、それによって発生する新たな課題を解決することは、もっと大切なことだと今回のフィールドワークを通じて、最も強く感じました。

自然と人間の共存

辻本 桜子

五月に学校のフィールドワークとして長野県諏訪地方を訪れた。様々な場所を見学したが、私が印象に残っているのは八島温泉だ。

ガイドさんの説明を聞きながら温泉を進む。聞こえてくるのは鳥のさえずり、風の音、道を歩く皆の足音、そして車のエンジン音。この温泉の近くには道路が通っている。かつて、温泉上を横断するビ-

御田町商店街で

福住 朱海

私は、御田町商店街で、都会の人の心の忙しさと、人との交流を知りました。私は普段、近所付き合ひさえも乏しいため、原さんから、移り住んで来た人へ差し入れをしたり改築の手伝いなどを通して助けあうという町のようすを聞き、そういう町の雰囲気に慣れました。そういう話を聞いてから御田町商店街に行き、私は少しその雰囲気に慣れた気がしました。

人と人とのつながり

狩野日菜子

御田町商店街は、主に「ロコミ」で人を呼んでいる。良い仲間を呼ぶ。信用、信頼関係を大切にしてのロコミは、実際に現地に訪れた人の情報が伝わるので、空想の情報が回る可能性は低い。訪れる側にも現地側にもメリットがある。あるレストランは、マッサージハウスを経営する友人の紹介で、御田町に店舗を構えることにした。

地域の縦のつながり

宇野百萌花

私の班ではフィールドワークの予定を立てずに御田町にお邪魔しました。どこへ行くか、と話をしていると髪型化粧屋さんが現れました。入り口には昭和の駄菓子屋さんをお模写したお菓子売り場、そして田舎のおばあちゃんの家のようなお風呂場、その奥ではお客さんと和やかに話しながら髪を切る美容師さん

得てきた感じがします。

私はあきみ工房さんとパン工房たかむさへお話を聞きに行きました。良い意味でも悪い意味でも東京の店とはちがいました。たとえば、東京の方がきれいで洗練されて見えます。それは、東京の人はきれいな方が入りたいと思うからです。しかし、諏訪では、東京にもあったら競争に負けてしまいそうな店も入ります。それは諏訪の人は外身でなく中身で付きあっているからだと思います。だからこそたすけあいも生まれると思います。諏訪の人づきあいは人の心とつながりを感じました。

という。また、ある旅館は「旅館が古くなっている」と情報があり、国内はもちろん国外からも百人程度のボランティアが集い、旅館の改修を手伝ってくれたという。

こちらもロコミの延長線上にある。このことを「マグネット効果」と呼んでいる。御田町がロコミを基盤にグローバル化していることに驚いた。しかし、まだ観光客は少ないとも思えた。現代ではSNS等の情報網が発達している。この情報網をうまく利用し、御田町の魅力を多くの人に知ってもらい訪れる人が増えたらいいと思う。

ん。現代と歴史が出会ったようなお店でした。突然の訪問にも関わらず、店員さん方はとても優しく迎えてくださり、私たちの質問にも嫌な顔一つせずにお答えくださいました。

美容室というところでなぜ駄菓子屋を売っているのか、それは地域の子供がお小遣いを握ってお菓子を買いに来る、そんな昭和の光景を取り戻したいから、ということでした。髪を切りに来る世代のお客さんだけでなく子供たちまで気を配っている髪型化粧屋さんは地域の縦のつながりを感じさせ、この地域の温かさを教えてくれました。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ②

貴重な体験

安岡 愛加

「いい環境だな」。真っ先にそう思った。豊かな自然に恵まれた諏訪地方には東京とは違い、人と自然がうまく調和しているように思えた。きっかけはハイキングの帰りに二ホンカモシカの子どもを見たことだ。東京では絶対に見られることはないであろう生物を間近で見られたことは私にとって貴重な体験となった。

実は先ほどの「いい環境だな」は掛け言葉だった。それは人々にとってというところだ。商店街で様々な方にインタビューさせていただいたのだが、どの方も親切に諏訪の魅力を紹介してくれた。東京でそんなことが可能であったか。私自身、正直難しいかと思う。本当に親切にしていた方が多いことがうかがえました。

御柱の傷

能登明佳理

先日私たちは二泊三日の学年合宿で長野県諏訪地方を訪れ、御田町や諏訪大社などをまわった。その中で特に印象に残ったのは諏訪大社だ。諏訪大社には古くから受け継がれてきた御柱祭と呼ばれる祭がある。七年に一度山から木を切り出し、人の手だけで諏訪大社まで引いてくる。そのため御柱には引きずられた痕があり、その道のりの長さ

がわかる。私はそれを見て、今まで諏訪大社に建った御柱のすべてに同じような痕があったのだと思う。不思議な気持ちになった。長い伝統を持つ御柱祭が今も残っているからこそ私たちは昔と同じ形で建った御柱を見ることができたのだ。御柱祭は怪我人が出たことがあったりと危険な祭りでもあるが、御柱に上った人は訪れる人を守りつけてきた伝統を示してくれている。古くからのものを守り後世へ残すことはとても大切なことだと改めて感じることができた。

生の声を聞いて

岡 佳穂

私たちはフィールドワークの一環として、長野県の御田町商店街を訪れた。諏訪へ向かう前、学校での事前学習、前日の講演で御田町のことを学んだ。元々シャッター街だったものが現在30店舗以上に上っていること、諏訪出身の方やりたいことのために新

しくお店を持つ方、様々な工夫や支え合って商店街をつくっていること。学習後に訪れた商店街では町の方の生の声を聞くことができた。古くからあるお店で新しく開業したお店や「見直し反対」のお店でお話を伺った。店舗数が増えたとはいえないが、お話を伺った。古くからあるお店を継ぐ方がいないこと、どちらのお店でも同じ内容を伺った。行くまで分らなかった御田町の現状を知り、新しい課題を発見した気がした。

あったかい

佐藤 優奈

私は先日、学校の合宿で御田町商店街を訪れた。シャッター商店街と呼ばれていた時から今に至るまで一体どんな変化があったのか不思議だ。シャッターやキタハラカメラなど様々なお店を訪れ、聞き込みを行った。その途中、私たちの班は一人の年配の女性に話しかけられた。女性は笑顔で歓迎するように私たちに声をかけてくれた。街の案内だけでなく、女性

の家族の話、私たちの学校の様子など、本当にいろいろな話を聞いた。私の住む東京では、知らない人と話すことなんて道に迷った時くらいだろう。まして一緒に歩きながら自分のことについて話すことなんて絶対にない。御田町の人の温かさに触れた今だからこそ東京の町がとても冷たく感じられる。御田町に今、若い世代が増えているという話が、それはきっと私たちと同じように御田町の温かさに触れたからだと思う。よき者にも優しく声をかける。このほっこりとした温かさは私の考える御田町の魅力の一つだ。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ③

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちが5月に、学年合宿で諏訪地方を訪れました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

穏やかな町

小林 彩葉

私は諏訪の町に行ってみて、とても穏やかな町だと感じました。東京という喧噪な土地から行ったからというのひびく理由です。しかし、御田町商店街、八島温泉などいろいろなところへ行き、そのなかで人と人、自然と人のつながりが諏訪の穏やかな

さをつくる大きな要因だと思いました。例えば八島温泉、自然を守る配慮がされた道、網目の大きさを考えた防護柵、そういう物事ひとつひとつから自然と人間の調和を体感しました。また、御田町商店街では、お話を聞く中で「人と人のつながり」という言葉が多く出てきました。人と人のつながりも自然と人のつながりも、強く密接なもので揺るぎない。だからこそ外部からも感じとれるような安定感、穏やかさがにじみ出ているのではないかと感じました。

仲の良い御田町商店街

菅沼 玲奈

私はフィールドワークにて、御田町商店街を訪れた際に、お店の方々に「御田町商店街の魅力とは何かを伺いました。すると私が伺った幸の者が「仲の良さ」とおっしゃっていました。老若男女問わず交

友関係があり、非常に良いバランスを保っているそうです。新しくお店を出す方に対するサポートも充実しているため、諏訪が地元でない方にとっても居心地のよい場所なのだろうと私は思いました。実際に御田町商店街の方々の明るさ、優しさに触れて、御田町商店街はとても元気をもらえる場所だと感じました。今回のフィールドワークはとても良いものになりました。ありがとうございました。

御田町の優しさ

齋藤 美葉

先日、私たちは長野県諏訪市で合宿を行いました。訪れた場所の中でも「目玉の御田町商店街でのインタビューが、一番印象に残っています。

御田町の方々はたくさん生徒からの質問にも一つ一つ丁寧に答えてくださり、本当に嬉しかったです。講演会を聞いた後、インタビューをしていく中で御田町の人の優しさにふれることができました。

姿を変える湿原から

小寺 美香

私が諏訪を訪れて一番印象に残っているのは八島温泉でハイキングをして、広い自然を目にしたことです。八島温泉は湿原というよりは少し木の生えた草原に見えました。ここでしか聴くことのできない蛙の鳴き声、ここでしか見られない植物が多くありました。

この湿原は、昔から採草地として使われていた

め木が生えず、標高に関わらずこのままの形を留めることができた。しかし、今では草を採る必要もなくなり、地球温暖化や開発の影響もあって諏訪の植物は目を重ねるたびに減っていく。さらには湿原が森林へと姿を変え始めるという話を聞き、私は森林になると、諏訪にしか生息しない自然の住処が次第になくなってしまします。貴重な自然をどう保護していくか、絶対的な方法を出さなければならぬような気がしました。一部の人の節電や節水、それだけでなく自然を守り切ることはできるのだろうか。改めて深刻に考えさせられました。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ④

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちから5月に、学年合宿で諏訪地方を訪ねました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

諏訪の地を訪れて

宮垣 花

私たち、お茶の水女子大学附属高校の1年生はフィールドワーク合宿として、諏訪地方を訪れた。初めの感想は、とても豊かな自然に囲まれ、景色が良いという点だった。海と見紛うほど大きな諏訪湖や、うっすらと青みがかった連なる山々は、普段東京で過ごす私にはとても新鮮なものだった。心なしか、吸い込む空気もおいしく感じられた。しかし、諏訪の良い所はそれだけではない。これは私たちが御田町商店街へフィールドワークに

町のぬくもり

鈴置 由夏

御田町商店街の方々は「初対面」の敷居が低いように感じた。初対面なのにまるでそうでないかのように接してくださった。他のお店でも貴重な話をたくさん聞けた。

御田町商店街

青木 優衣

私たちは校外学習として下諏訪にある御田町商店街の方々に町の様子や住民のつながりについて、インタビューをさせていただきました。商店街というと活気があり賑やかなイメージがありますが、私たちの想像に反してじんまりとした、静かな雰囲気でした。私たちの班は最近出されたお店や昔から出ているお店の比較をするために三つのお店を訪ね、お話を伺いました。話を聞いていて印象的だった

私に出来ること

大森 渚

先日、私たちは学校の宿泊行事で長野県諏訪地方を訪れました。私はトコロテラスで食べたトコロテラスや、昼食で食べた寒天をとてもおいしく思い、雪があまり降らずに、乾燥している気候が適しているそうです。しかし、最近、地球温暖化が進んでいる

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑤

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちから5月に、学年合宿で諏訪地方を訪ねました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

想像以上のあたたかさ

篠原 李欧

先日、学校のフィールドワークとして諏訪地方を訪れた。下諏訪町を散策した際、私は想像以上のあたたかさを感じることができた。以前から耳にしていた「想像以上のあたたかさ」という言葉を聞いて、お話を聞かされた。中からお茶の水女子大学が「入っておいで」と声をかけてくれて、お茶やお漬物を私たちにふるまってくれた。古風な室内で食べるお漬物は、

シカの食害を防ぐ柵

佐藤 瑞菜

私は諏訪合宿の一環として八島湿原へ行きました。八島湿原は、私の想像を大きく上回る広さでその大きさに圧倒されました。遊歩道が木でできていて、歩きの妨げがなかったのですが、自然を身近に見ることができたので良かったです。私は八島湿原で一番印象に残ったことは、シカの食害を防ぐために張られた柵を見たときです。シカ

大切にされる伝統

豊田 日向

私たちは先日、学校の合宿で諏訪地方を訪れ、諏訪大社に参拝しました。諏訪大社と言えは、シンボルとも言える御柱である。私は実際にそれを見て、大きさと大きさに驚いた。また、参拝に来ていた方々が、御柱に手を触れている様子を目にした。その後の

地域の連携の大切さ

執行 花菜

私たちは合宿でシャッター街から復活した御田町商店街を訪ねた。自分たちが思っているよりは案外に良かったが、確かに温かい雰囲気のある素晴らしい商店街だった。私がこの町から学んだことが一つ

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑥

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちから5月に、学年合宿で諏訪地方を訪ねました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

御田町商店街の団結力と温かさ

青木 希実

私は、今回御田町商店街を訪れた。数年前までは、空き店舗が目立っていたが「空き店舗0」を達成したことで有名な商店街である。実際に訪れてみると、人通りは少なく車の通る音が大きく響いていた。そのことに私は衝撃を受けた。お店の方は、人が少ないので商売自体が苦しい状態だと口を揃えて言

町の温かさ

石田 優花

私は長野県下諏訪町にある御田町商店街へフィールドワークで訪ねました。そこで私が思ったことは、近所同士つながりが強いということ。私が訪ねたいいくつかのお店でお話を伺うと、知り合いに勧められてお店を開いたとおっしゃった方がいました。私はお店を開くのは大変で、知り合いに勧められただけでは簡単にできることではないのか

優しい御田町商店街

大森 麻緒

私は今回、学校の合宿で御田町商店街に行きました。シャッター街だった御田町商店街は御田町の人たちのあたたかさで多くの若者を呼び込み、空き店舗ゼロを達成したと聞いていました。実際に訪れてみて、急に押し寄せてしまったのにインタビューに答えてくださったりと、本当に優しい方がたくさんいる町でした。また、御田町商店街で長年お店を

八島湿原での体験

長澤 ジョディ・彩

八島湿原を回って、そのフェンスは立っていた。湿原の植物などをシカの踏み荒らしから守るためだという。内側にシカの糞は一つも無かった。日本では、八島湿原にある草原のような地形は珍しく、全体の1%もないそうだ。また、八島湿原は、日本の多くの湿原には存在しない特徴などがあり学術的な価値が高いと聞いた。シカから守り

る。

しかし、それらを乗り越えることができていいるのは御田町の人々の団結力のおかげだろう。一人一人が自分たちのことに対して危機意識を持ったからこそ生まれた団結力ではないか。また、御田町の人々はお店に押しかけた私たちにに対して嫌な顔をせず、対応してくださった。

若者がいない、人口減少、高齢化などの課題も山積みの中、町おこしに成功した御田町商店街。その団結力、温かさは私たちも見習うべきではないか。

と思いましたが、御田町商店街では商店街全体で新しいお店を開く人の移住を歓迎していました。移住の相談をするスペースまで設けられていて、温かい街だなと思いました。また、お茶の水女子大学という会が商店街にはあり、商店街の活性化を支えています。

フィールドワークを終えて、下諏訪のことたくさん知れたと思います。ここでは都会では経験できないことがたくさんありました。それが下諏訪の魅力であり、特徴なのだと思います。これから御田町商店街が明るく元気の場所でありまうように。

続けてきた方は仕事内容にも優しさが溢れていて、確かに、遠くから来た若者でも安心して暮らせるのだと思う。

一つ気になったのは、御田町商店街には老舗があまりないということです。商店街の人たちは若者を呼び込んでいましたが、御田町出身の若者は東京とかに行ってしまう後継者がいなくなり、一代で終わってしまうそうです。何十年と守ってきたものを、後継者不足でなくしてしまうのは悲しいので、どうにかして一代・三代と続けていけるように思いました。

たいと考えるのも当然だと思う。だが、シカにとつては、今まで自由に生きてきた土地が、いきなりよくわからない理由で通れなくなってしまうということだ。フェンスがつけられてしまえば、シカがフェンスに突っ込む事故が多かったという。

私は今まで、自然保護は人間以外の生き物のためになることだと思っていたので、このように、人間のついでによる「保護」で苦しめられる動物がいるとは知らなかった。八島湿原での体験は、私に、新たな見方を与えてくれたと思う。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑦

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちが5月に、学年合宿で諏訪地方を訪れました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

ハイブリッド諏訪

清田 奈那

諏訪は寂しげな感じがした。はじめは自然があふれる伝統のある街だと思っていた。その通りだった。しかし、予想とは反していたのである。感動を感じたのは、大迫力。諏訪大社の御柱や神木をみて時の流れや御祭について知り感動した。迫力も威厳もあるが決して圧迫ではない自然。人と自然の共存のバランスのよさによるためかもしれない。

御田町商店街の魅力

西谷 真菜

私は学校の宿泊行事で諏訪地方を訪れ、フィールドワークを行いました。そのなかで私たちは御田町商店街に行く機会がありました。私がまず気づいたのは、御田町商店街に住んでいる人のあたたかさです。そこでお店を経営している方々にインタビューをしました。どの方もあたたかく対応してくれました。さらには、道ですれ違った

諏訪で感じたこと

森 千紗

私たちはフィールドワークで諏訪を訪れた。私にとっての一番の思い出は、諏訪の方々がとても親切であったことだ。フィールドワーク二日目、私たちは御田町商店街を訪れた。そこで歩いてみると、たきさんの方が私たちに声をかけて挨拶をしてくださったり、商店街について教えていただいたりすることができ

私が見た初めての諏訪

廣岡 萌名

バスが諏訪に入ると、想像以上に広々とした水面が目に見え、強い風が波を作って海かと思うほど大きな湖の姿を見せてくれた。豊かな自然に囲まれた由緒ある諏訪が、今回の合宿は現在の日本が抱えている高齢化や過疎化などの問題を、様々な知恵を出して乗り越え、前進していくという街の姿を見る機会となった。これらの

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑧

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちが5月に、学年合宿で諏訪地方を訪れました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

御田町で触れた温かい心

永留佑美香

学校の合宿で諏訪を訪れました。印象に残ったのは、合宿二日目、御田町商店街にて、班ごとに御田町商店街がシャッター商店街から復活した理由を探るフィールドワークを行ったことです。お話を聞くとおかみさん会の存在、よき者を拒まない姿勢、諏訪に住む人々の温かさがあつたからと伺いました。昔からあるお店の方も、諏訪に来たばかりの方

繋がり強い御田町商店街

塩塚 理央

私たちは学校行事である諏訪合宿で御田町商店街を訪れた。シャッター商店街と呼ばれていたところはシャッターは開いているものの、肝心のお客さんはまだ少ない気がした。だが歩いてみると親切なお店を紹介してくださった方や道案内をしてくださった方がおり、東京ではほとんど見られない光景に驚いた。さらに町内の方々の繋がりや強さを目の前で感じ

諏訪の人々の温かさに触れて

古澤友梨佳

「なんか居心地がいい」それが私が御田町商店街を訪れた時、一番最初に思ったことだった。それまで私はシャッターの降りていない商店街というものをほとんど知らなかった。商店街と言え、閉まった店が立ち並び、チェーン店に気取られている、そんなイメージしか持っていなかった。実際に訪れてみて感じたのは、人の温かさだ。御田町商店街だけ

ミツバチとのつき合い方

栗山真由子

先日、学校の合宿で長野県諏訪地方を訪れました。初日は山田養蜂場に行きました。山田養蜂場さんのおかげで、はちみつに対する価値観がものすごく変わりました。私たちははちみつの作り方を教わり、試食させていただきました。養蜂の仕事でいちばん大切なのは、ミツバチとのつき合い方だそうです。手荒に扱って性格の悪いミツバチになりやすいので、できる

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑨

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちが5月に、学年合宿で諏訪地方を訪れました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

あの商店街は今

成瀬 悠華

私は学校の合宿で諏訪地方を訪れた。美しい諏訪湖や広大な八島温泉など、たくさんの場所を見て回った。その中で私が一番記憶に残っているのは御田町商店街を訪れたときのことだ。私はそこで調べ学習をしていたのだが、その課程で御田町商店街の特徴が三つ分かった。それは人々が大切なこと、地域のつながりが強いこと、そし

諏訪の繋がりと固い絆

山田 万桜

私は諏訪を訪れて、諏訪の人々の繋がりと固い絆を感じました。諏訪大社は昨年の御柱祭で建てられた御柱を見ました。16本の御柱は予想よりずっと大きく真直ぐ建っていて、地元の人々が全力を尽くして建てたと思うと一本一本にもすごいパワーを感じました。周辺の小さな社に本物の御柱があり、御柱がいに愛されているかを感じました。

共栄のまち、諏訪

鷲尾 美波

この春、学校のフィールドワークで私が訪れた御田町商店街は諏訪大社春宮と秋宮に囲まれた由緒ある町だ。私の住む東京とは雰囲気の違い、リラックスできる空間というのが最初の印象だった。特に興味深かったのは、諏訪にやってくる若者と元から住む方々の繋がりが、商店街を発展させるためには、文化を継承していく若者の存在が不可欠なと思う。

諏訪とは

河野 千晴

山々と温かみのある素朴な人々に囲まれた場所、私は諏訪をそんなところだと感じました。私たちがめくったのはトコロテラス山田養蜂場、諏訪大社、八島温泉、御田町商店街、岡谷系博物館、宮坂製糸所、丸伊藤商店といった人情味と雄大な自然にあふれた場所でした。山田養蜂場ではハチに与える植物によってこんなにも味に変化がでるのかと驚き、諏訪大社では独特で神秘的な雰囲気を感じました。八島温泉では自



お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑩

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちが5月に、学年会場で諏訪地方を訪ねました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

御田町の外部との交流の大切さ

浅野 理子

今回、御田町商店街を訪れて、町の人々の交流が盛んであることを知りました。数年前まで空き家が多く、シャッター通り商店街だったのがなぜ復活してより住み良い町になったのか、商店街のある店に伺いました。

SNS等を通して御田町に一度訪れてもらい、リピーターが空き家を活用して店をつくったというの

ニホンカモシカに誘われて

上田 萌加

「ニホンカモシカの赤やんた」

八島温泉を訪れた帰りのバスの中でのことだった。窓から外を眺めると、そこには、諏訪の山々に育まれた特別天然記念物の姿があった。諏訪の自然の豊かさに気が付いた。

バスに揺られて目を閉じると、八島温泉のネー

私の見た町、商店街

鹿島 由佳

先日、私とお茶の水女子大学附属高校の生徒が御田町商店街を訪ねました。その中でも私の印象に残ったのは御田町商店街です。一年生は百二十人という大人数であるにも関わらず、一団一団にまとまって御田町について話をしてくれたり、また、私の話を聞いてくれていたのですが、通りすがったお茶の水女子大学附属高校の生徒が御田町商店街を訪ねてくれたことがとてもうれしかったです。

優しい町

石井野乃華

先日、私は学校の行事で三日間諏訪地方を訪ねました。三日間たくさんの貴重な体験をしました。その中でも一番印象に残ったのは三日間行ったフィールドワークです。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑪

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちが5月に、学年会場で諏訪地方を訪ねました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

諏訪の伝統を受け継ぐ者

小野田成美

一礼し、鳥居をくぐると、辺りの空気が一変したように感じられた。諏訪大社の力を自らの肌で感じた瞬間だった。

私が諏訪大社を訪れ、一番印象に残ったのは御田町。一面だけ残った巨木を目の当たりにし、御田町の歴史を感じた。諏訪の人々が命を懸けて建てた御田町を見るとき、胸の奥から熱いものが込み上げてくるように感じた。

御田町への熱い思い

斎藤 玲奈

先日、フィールドワークとして諏訪地方へ合宿に行きました。そこでは、全国から注目されている御田町商店街を訪れ、話を伺うことができました。

御田町商店街は、全国でも珍しい空き店舗の商店街と知った。私は商店街の活性化とは東京のようにならなくて、御田町ならではの強みを作っていく町づくりが必要であると感じた。また、地域の人たちの信頼関係がこの町を支え、より良い商店街に導いていることに気づくことができた。

協力する商店街の人々

中山 晴香

私は、今回の学校のフィールドワークで初めて諏訪に来ました。正直にいうと、今まで諏訪地域に関して、諏訪湖のことしか知りませんでした。来る前の宿題では、霧ヶ峰地域の貴重な自然と、保護について学び、実際にフィールドワークで霧ヶ峰を訪れて、広大な草原に立つと、とても爽快な感じがして、東京の空気より澄んでいて、とても気持ちよかったです。

御田町商店街で知った人々のあたたかさ

長谷川知優

私たちは長野県諏訪市へ二泊三日のフィールドワークに行きました。そこで二泊三日、「御田町商店街」という場所に行きめぐりました。そこはかつて「シャッター通り」と呼ばれていたところと比べると、かなり空き店舗が少なく、商店街が非常に多い商店街だった。一体なぜ、こんなに発展することができたのだろうか？私たちがその理由を現地では体感した。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑫

お茶の水女子大学附属高校の1年生たちが5月に、学年会場で諏訪地方を訪ねました。生徒たちから寄せられた投稿を紹介します。

温かくて美味しく美しい街

原 なつ美

二泊三日で諏訪を訪れて私はこのように感じました。三日間で訪れた場所が私たちに歓迎してくださった。たくさんの人々に「こんにちは」と言われて、とても温かくて、優しく、そして、とても美味しい街です。また、三日間で頂いたお茶の水女子大学附属高校の生徒たちから、とても美味しい、新鮮で、諏訪地方の名産、寒天料理も美味しかったです。

諏訪の人たちの心温かさ

矢次 真歩

私は月十一日から十三日までの三日間、校外学習で諏訪に滞在しました。その中で一番心に残ったのは諏訪の人たちの心温かさです。ホテルの方やガイドさん、道を尋ねた通りすがりの方もみんな笑顔で私たちに接してくださりました。

特に印象に残っているのは御田町商店街での出来事です。私たちが道を歩いているとお店にいた女性の店員さんが優しく話しかけてくださいました。その方はお仕事を休んでくれたにもかかわらず、私たちの質問に丁寧に答えてくださいました。また、私たちの方が道を迷ったときも、優しく声をかけてくださいました。

御田町商店街を歩いて

山本 結

先日、私たちは学校の合宿で長野県諏訪市を訪ねました。合宿中は二泊三日に亘って御田町商店街を訪ねました。御田町商店街の魅力を諏訪市の魅力としてインタビューさせていただきました。

体験する大切さ 諏訪で学ぶ

私にとって、諏訪での合宿は非常に貴重なものだった。

私は事前学習で霧ヶ峰の自然について調べ、八島温泉に特に興味を持っていた。実際に訪れてみると、強い酸性で植物が育たない場所、温泉奥の斜面に迫る木々、頭の中の緑豊かな見わたす限りの草原の姿が一瞬で塗り替えられた。

午後は、商店街を訪ねた。街の良さや経営の難しさ。調べ学習だけでは絶対にわからない街の雰囲気、人々の本音がそこにあった。

何かについて知りたい時、私たちはインターネット検索ですませてしまいがち。しかし、本当に大切なのは、自分の目で実際に体験することなのだ。先生方からも言われていたが、今回それを身をもって実感した。

現代社会には課題が山積みだ。それらの打開策を見つけるのはほかならぬ私たちだ。もっと多くの人が多くのことを知る。それは、より良い未来を形づくるための確かな原動力になるはずだ。最後にご協力いただいた皆さまに心から感謝したい。

さいたま市 大河原早紀 (高校生・15)